

[成果情報名] 水稲「イクヒカリ」の奨励品種採用

[要約] 「イクヒカリ」は「キヌヒカリ」と同程度の熟期で外観品質が良く、良食味である。そこで「キヌヒカリ」の品質低下が問題となっている地域における代替品種として「イクヒカリ」を奨励品種に採用する。

[キーワード] イネ、奨励品種、外観品質、良食味、イクヒカリ

[担当機関名] 和歌山農林水技セ・農試・栽培部

[連絡先] 0736-64-2300

[部会名] 野菜・花き（野菜・作物）

[分類] 普及

[背景・ねらい]

本県の主要品種「キヌヒカリ」は県北中部を中心に広く栽培され、県内水稲作付面積の50%以上を占める。しかし近年、作期の前進化等により登熟期が高温期に当たる等の原因から、外観品質の低下が問題となっている。また、消費者からは良食味米が求められる。

そこで、白未熟粒が発生しにくく良食味の品種で、和歌山県に適応する品種を検討し、「イクヒカリ」を選定した。この結果を基に「イクヒカリ」を奨励品種に採用し、普及することで、県内極早生品種の高品質・良食味米の安定生産を図る。

[成果の内容・特徴]

「イクヒカリ」は「キヌヒカリ」と比べて次のような特徴を持つ。

1. 出穂期は-2～+1日、成熟期は-2～±0日でほぼ同等である（表1）。
2. 草姿はよく似るが、稈長がやや短く、穂長がやや長い（表1）。
3. 穂数はやや多く、草型は中間型に分類される（表1）。
4. 千粒重が重く、収量はやや多い（表1）。
5. 耐倒伏性は同程度で強い（表1）。
6. 心白粒の発生が少なく、外観品質が優れる（表2）。
7. 白米中のタンパク質含量がやや少ない（表2）。
8. 粘りが強く、食味は同等以上である（表3）。
9. 現地試験においても出穂期-3～+2日、成熟期-4～+5日でほぼ同等。稈長、穂長は同等からやや長い。千粒重は重く、収量は同等からやや多い（表4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「イクヒカリ」の適地は県内全域の平坦地～中山間地と考えられるが、特に「キヌヒカリ」の外観品質低下が問題となっている県北中部の平坦地での普及を図る。
2. いもち病、白葉枯病に対する抵抗性は中程度であるので、薬剤の育苗箱施用などの防除を行う。
3. 出穂期までは葉色がやや淡く経過するので、追肥時期および量に注意する。倒伏には強いが、良質米生産上、多肥栽培はしない。
4. 平成18年度は種子供給体制を整えると同時に展示圃等を通して「イクヒカリ」の周知に努める。平成19年度から本格的に一般栽培の普及を進める。

[具体的データ]

表1 イクヒカリの生育特性

品種	年次	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精玄米重	同対標準比	千粒重	倒伏程度
		(月.日)	(月.日)	(月.日)	(cm)	(cm)	(本/m ²)	(kg/a)	(%)	(g)	
イクヒカリ	2002	6.14	8.09	9.12	76.0	20.2	361	71.7	103	23.9	無
	2003	6.17	8.10	9.09	78.8	18.7	306	63.3	103	23.9	無
	2004	6.17	8.10	9.12	79.3	18.2	325	59.8	103	23.1	無
	2005	6.16	8.08	9.13	77.6	19.7	304	56.6	109	24.3	微
	平均	6.16	8.09	9.12	77.9	19.2	324	62.9	105	23.8	無-微
キヌヒカリ (標準)	2002	6.14	8.08	9.13	85.0	18.3	344	69.9	100	22.8	無
	2003	6.17	8.12	9.11	79.7	18.3	308	60.0	100	22.8	無
	2004	6.17	8.10	9.12	78.8	17.9	310	58.2	100	22.7	無
	2005	6.16	8.10	9.13	79.2	19.3	318	51.9	100	22.8	無
	平均	6.16	8.10	9.12	80.7	18.5	320	60.0	100	22.8	無

注)和歌山県農業試験場内における生産力検定試験のデータ。

施肥窒素量：8g/m²

倒伏程度は無・微・少・中・多・甚の6段階評価。

表2 イクヒカリの品質およびタンパク質含量

品種	年次	白未熟粒発生割合(%)					品質	タンパク質含量(%)
		心白	乳白	背白・腹白	その他白未熟	白未熟		
イクヒカリ	2003	2.8	0.0	3.1	2.6	上中	5.78	
	2004	3.2	0.0	1.8	6.7	中中	5.64	
	2005	6.0	4.4	0.5	0.6	上中	6.36	
	平均	4.0	1.5	1.8	3.3	上下	5.93	
	2003	6.8	0.3	0.3	1.8	上下	6.30	
キヌヒカリ (標準)	2004	13.0	0.0	0.5	4.4	下中	5.80	
	2005	11.9	4.7	0.6	0.8	上下	6.88	
	平均	10.6	1.7	0.5	2.3	中中	6.33	

注)表1と同一ほ場のサンプルを使用。

タンパク質含量は近赤外線分析装置ニレコ6500により白米を分析。

表3 イクヒカリの食味(食味官能試験)

年次	品種	パネラー数	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
2003	イクヒカリ	26人	0.27	0.39	0.12	0.73*	-0.08	0.35
2004	イクヒカリ	32人	0.26	0.20	0.26	0.48*	0.06	0.30
2005	イクヒカリ	27人	0.41	0.26	0.11	0.44	0.11	0.26
	コシヒカリ		-0.07	-0.19	0.07	0.07	0.37	0.04

注)生産力検定ほ場のサンプルを使用。

いずれも基準品種は「キヌヒカリ」。パネラーは試験場職員。

*は5%水準で有意差があることを示す。

各項目とも基準品種を0として-3~+3の範囲で評価した。

表4 奨励品種決定現地調査成績(2005年)

実施場所	品種	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	精玄米重	標準比	千粒重	倒伏程度
		月.日	月.日	月.日	cm	cm	本/m ²	kg/a	%	(g)	
海南市	イクヒカリ	6.11	8.06	9.10	74.6	17.2	375	61.8	114	23.3	中
	キヌヒカリ	6.11	8.04	9.08	73.6	16.8	325	54.2	100	22.8	少
岩出町	イクヒカリ	6.04	8.01	9.11	92.0	19.0	528	72.5	97	22.1	無
	キヌヒカリ	6.11	8.04	9.08	73.6	16.8	325	54.2	100	21.9	少
かつらぎ町	イクヒカリ	6.18	8.07	9.21	74.0	17.2	504	62.5	107	24.2	微
	キヌヒカリ	6.18	8.09	9.16	83.0	15.8	416	58.3	100	22.4	微
広川町	イクヒカリ	5.27	7.31	9.05	74.0	17.7	380	60.8	103	23.6	無
	キヌヒカリ	5.27	8.01	9.05	74.9	18.5	344	59.3	100	22.6	無
美浜町	イクヒカリ	6.09	8.02	9.09	94.9	18.9	421	80.6	128	22.9	微
	キヌヒカリ	6.09	8.04	9.12	92.9	16.3	313	62.8	100	22.3	少
上富田町	イクヒカリ	5.22	7.30	9.09	70.1	20.4	324	55.4	98	22.0	無
	キヌヒカリ	5.22	8.02	9.10	73.9	20.5	391	56.7	100	21.6	無
那智勝浦町	イクヒカリ	4.29	7.13	8.12	65.3	17.6	351	40.7	86	22.5	無
	キヌヒカリ	4.29	7.16	8.16	66.8	16.5	324	47.3	100	22.1	無

注)倒伏程度は無・微・少・中・多・甚の6段階評価。

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した水稻食味向上技術

予算区分：県単

研究期間：1999～2005年度

研究担当者：垣内仁、森本哲矢、宮本芳城、川村和史、浅井良裕